

放課後等デイサービス 事業所における自己評価総括表(公表)

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス いりほ第三単位			
○保護者評価実施期間	2025年 11月 1日 ～ 2025年 11月 15日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18	(回答者数)	18
○従業者評価実施期間	2025年 11月 1日 ～ 2025年 11月 15日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 11月 22日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	○プログラム内容の充実 生活習慣に合わせた多様な活動内容	日々のプログラムを、支援プログラムの5項目に合わせてバランス良く作成し提供している。プログラム内容は毎日異なった職員が作成を行い、担当職員独自の個性あふれる活動が組み込まれている。 室内活動では身体を動かす動の活動と物事を考えたり作ったりする静の活動をバランスよく取り組み実施している。また、季節に合わせた外出や工場見学、地域のイベントへの参加等、多様な外出支援を提供している。	活動目的として得意とすることや苦手としていることを楽しみながら伸ばしていける内容を職員全員で検討し、活動を提供していく。 子どもの発達に合わせて、個別の活動と集団の活動をバランス良く組み合わせて個々の成長を促す活動を提供していく。また、日常生活の充実のため日常動作や公共施設、公共交通機関の利用などの活動も取り入れていく。
2	○同年代の他児との関わり 他者との関わりの充実	小学校低学年の子どもを中心に支援を行っている。同年代の子どもと一緒に過ごすことで、共通の話題を中心に関わりが持てるよう環境を整えている。また、発達に合わせた支援を取り入れ、お互いに協力し合い一体感を感じられる活動を取り入れている。	イベントや長期休み等、子どもが1つのテーマに沿って話し合いや協力して作業を行う活動を取り入れ、他者との関わり方やコミュニケーション能力を高めることができるよう取り組んでいく。
3	○親御様に寄り添う支援 保護者様の幅広いニーズにや困りごとに対応する力を身に付ける	保護者様と相談しやすい関係性を築けるよう、送迎時に日々の様子等の情報共有を行っている。また、送迎時や懇談にて、聞き取った子育てに関する悩みや困りごとを職員全員で共有し保護者様に寄り添うことを心掛けている。 懇談時にはアセスメントシートにて事前に要望やニーズについての聞き取りを行っている。 保護者参観や保護者交流会を実施し、事業所の支援や職員の思いを共有できる機会を設けている。	日々の送迎にて、保護者様とその日の様子を伝えることや何気ない会話を大切にし、親御様に安心して相談していただけるような関係性を深めていく。また、保護者様の悩みや困りごとについて、保護者様に寄り添い職員全員で共有し、解決に向けて対応を検討していく。
4	○専門知識の向上への取り組み 子どもの発達や福祉サービスの知識習得の取り組み	社内研修や勉強会等を実施し、子どもへの支援技法や福祉サービスの知識を深められる機会を設けている。また、外部研修にも職員が定期的に参加し、学びの幅を広げている。参加した研修は報告書にまとめて職員間で共有し、職員全員で知識の向上を目指している。定期的に他施設の職員にも相談を行い、多様な視点からのアドバイスもいただいている。	福祉サービスの知識だけでなく、個々の発達や成長に繋がるようその子の困りごと等の専門的な知識を学び、多様な子どもに対応できる支援技法の習得を目指していく。
	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	○活動スペースの狭さ	指定されているスペースは確保しているが、子どもが身体を目一杯動かすにはスペースとして十分でない。	安全を確保し、子ども達が過ごしやすい環境を目指して工夫しながら環境を整え支援していく。 スペースにあった活動内容や過ごし方を提供し、目的に応じて公園や体育館等の公共施設を利用しながら身体を目一杯動かすことができる機会を提供していく。
2	○地域の場の活用や、地域の方との関わりが少ない	多様な活動を提供しており、地域のイベントや公共施設への外出は行っているが、地域の方との関わりが少ない。また、季節に合わせた外出をしているが季節により外出機会が減ったり限定されたりしている。	定期的な外出の機会を提供していくため、地域の社会資源の発掘や他施設との情報を共有し、取り入れることで定期的な外出の機会を提供していく。外出の際、地域のイベントや公共施設の利用時に地域の方や施設の方との交流が図れるような内容を検討していく。
3	○建物に階段がある	事業所が2階にあり、入室に階段を上る必要があるが、昇降の際に踏み外す危険性がある。冬季など階段の昇降時に足元が暗く、荷物を持っていると足元が確認しにくい場面がある。	階段昇降時には職員の手つなぎや声掛け等を継続して行い、子ども自身も手すりを持つなど安全を確認しながら階段の昇降を行う。また、誘導時に子ども自身が足元の確認ができるよう手荷物は別で運ぶことや足元を照らすなどの配慮を行い、子どもの安全を確保していく。